

パブリックコメントで提出されたご意見（要旨）及び市の考え方について

■募集案件の概要

募集案件	狭山ニュータウン地区活性化指針（素案）に対する意見募集について
募集期間	平成３１年２月１日（金）から２月２５日（月）まで
意見者数	４名（１１件）

■狭山ニュータウン地区活性化指針（素案）に対するご意見

上記募集期間で意見募集をしましたが、活性化指針（素案）について、修正すべきご意見はありませんでした。しかしながら、活性化指針（素案）策定後の具体的な取組みとして、イベントの企画や市民憩いの場の創出等、今後の狭山ニュータウン地区のまちづくりに対するご意見等を１１件いただきました。

ご意見に対する市の考え方
市としては、活性化指針（素案）に記述しているとおり、次年度以降において、地区住民や地域活動団体等の多様な主体が意見交換を行う場の立ち上げをめざすこととしており、事業者・大学等と連携しながら運営支援の役割を担っていきたいと考えています。この意見交換の場において、活性化指針（素案）で掲げている取組項目のうち、短期的に取り組む項目を中心に意見交換を行い、テーマごとに関心を持つ人たちが集まり、実践を担うグループがいくつか立ち上がることを想定しています。今回ご提案をいただきましたまちづくりに対するご意見も参考にしながら、狭山ニュータウン地区の活性化に向けた議論を深めてまいりたいと考えています。 また、近畿大学医学部附属病院の跡地については、あくまで土地の所有者は近畿大学であり、市独自で跡地利用を決めることはできませんので、まずは、医療機能の確保を最優先に、市と大阪府、近畿大学の３者で協議を進めているところです。

いただいたご意見（要旨）
【意見】<u>意見を交換しながらそれぞれの役割（住民・自治会等、ＮＰＯ等地域活動団体、行政、事業者、大学の５者）を確認する場の設立を</u> 【概要】 意見交換の場を設け、定期的に各主体の活動状況の情報を共有し、連携・協力するプラットフォーム（推進体制）を運営し、（仮称）「狭山ニュータウン地区活性推進会議」のような活性化を推進する組織が必要である。 行政が組織の中心となり、主要な住民・自治会等、ＮＰＯ等地域活動団体等が民間の代表として参加、構成員となるかたちが考えられる。
【意見】<u>現役世代（３０～５０代）が、ニュータウンに愛着が持てるイベントの企画を</u> 【概要】 （例）異業種交流会（男性向け） 夫の定年後を考えるセミナー（女性向け）等の３０代・４０代・５０代限定ミーティングの開催 この世代が円卓会議や自治会に参画できる環境作りが目標
【意見】<u>子どもたち・高齢者の方々に防犯対策（ＧＰＳサービス）を</u> 【概要】 広範囲で人通りの少ないニュータウンの課題は、登下校の子供たち・高齢者の方々の外出時の安全確認である。現在、ＧＰＳ端末での位置情報確認が普及しており、導入を検討していただきたい。
【意見】<u>いちょう通り（狭山河内長野線）を「狭山グルメ街道」に。関西でも憧れられる都市空間を形成、狭山ニュータウン地区の移住者を促進。</u> 【概要】 現在、近大病院から公民館の間には、少しおしゃれな飲食店が並んでいる。このいちょう通りを、豊中のロマンチック街道のように、さらに活性化・ブランドイメージＵＰを図る施策を実行していただきたい。 この通りに出店する店舗（既存店）に優遇策 ○ブランドイメージ（美味しい・清潔・ホスピタリティ）を損なわない店舗作り ○客単価が１，５００円以上のメニュー（ジャンル問わず） ○駐車場を５台以上確保（店舗前及び近隣駐車場を含む） ○出店する際には、補助金５０万円（既存店には、１０年ごとに５０万円を補助） ○ファン作りのため、専用ＨＰ・ＳＮＳに店舗情報を掲載（掲載費無料、運営は商工会）
【意見】<u>大野地区、あまの街道といった自然と、近大病院の跡地を一体化した自然豊かな市民の憩いの場の創出</u> 【概要】 北部の「市民ふれあいの里（リス園）」、中部の「さやか公園」のような市民が利用しやすい公園が欲しい。 また、住宅地の中には低年齢の子どもが使える公園は確かに数としては整っているが、整備されてから年数も経ち、地区全体の公園整備を抜本的に計画する必要がある。 大野地区、あまの街道といった自然と近大病院跡地を一体化した本当に自然豊かな市民の憩いの場を創出していただきたい。
【意見】<u>南中学校区に地域包括センターを</u> 【概要】 近大病院移転後も引き続き、医療施設や介護施設等の集まる市から必要とされる地区にしていきたい。現在お住いの方とこれから転入してくる若い世代とともに住み続けていくことのできる、新しいモデル地区になるような活性化策をしていただきたい。
【意見】<u>公共交通機関と協議しながら、住民ニーズの把握を</u> 【概要】 近大病院の移転に伴い、循環バスや路線バスの利用について、影響が出てくると予測される。市外へ通学する学生、通勤する働く若い世代には、この交通問題は切実な問題である。そのため、住民ニーズの把握に努め、バス路線の見直しやダイヤ改正等を検討していただきたい。

ご意見・ご提案の内容（要旨）
【意見】<u>意見交換の場の立ち上げを</u> 【概要】 次年度以降、多様な主体が参画し、具体的な取組みについて意見交換を行う場の立ち上げをめざし、担い手の育成につながる支援のあり方について検討していただきたい。 また、指針の進捗状況の把握に努め、行政が主導して住みやすい、暮らしやすいまちづくりをめざしていただきたい。
【意見】<u>現在ある既存施設の活用を</u> 【概要】 国の補助金を活用し、２０１９年４月に「大野台こども園」が新設され、跡地は更地として市に返還されると聞きました。 大きな予算を使って新設せずとも、既存の施設を工夫して「リノベーション」することにより新たな可能性が生まれてくるのではないかな。 「こども園」が少し古くなったからとスクラップするのではなく、耐震化や園の施設で使えるものを残すなどして、市民の知恵を生かし再利用できるのではないかな。行政が主導し、市役所で連絡を密にして、既存施設を生かしていただきたい。
【意見】<u>近畿大学医学部附属病院移転後の跡地利用、「小児・周産期を含む３００床規模の医療機能」を有する医療施設の招致を</u> 【概要】 近畿大学医学部附属病院移転後の跡地利用を抜きに、狭山ニュータウン地区の活性化は考えられない。跡地利用をどうするかを検討していただきたい。 「狭山ニュータウン」らしさを発信するためには、近大医学部移転後医療空白を作ることなく、大阪府・大阪狭山市・近大の責務として、「小児・周産期を含む３００床規模の医療機能」を有する医療施設を招致するとともに、大阪府に対して、災害拠点・三次救急病院の設置も強く求めているいただきたい。
【意見】<u>近畿大学医学部附属病院の跡地を、全世代が共有できる場所に。市独自の施策として、特色ある社会保障政策の充実を</u> 【概要】 近畿大学医学部附属病院の跡地を複合施設などではなく、「医療・介護・福祉・子育て支援・教育」ゾーンとして、全世代が共有できる場所として魅力を発信できるよう活用していただきたい。 全世代が生活しやすい環境を作り、人口増につなげていただきたい。